

市全域で甚大な被害



由良川の氾濫で冠水する大川地区の国道175号(16日、11時26分撮影)

【15～16日の動き】

9月15日	
16時00分	自主避難所5か所を開設
19時15分	大雨(土砂災害・浸水害)・洪水警報発表 舞鶴市災害警戒本部を設置
22時30分	舞鶴市災害対策本部を設置
9月16日	
1時30分	土砂災害警戒情報発表
2時00分	市内全域に避難準備情報を発表
5時05分	大雨特別警報発表 (京都府・滋賀県・福井県全域)
6時45分	広域避難所を開設 市内全域に避難勧告を発表
9時58分	大雨特別警報解除
10時35分	土砂災害警戒情報解除
13時39分	大雨警報解除
19時39分	洪水警報解除 市内全域の避難勧告を解除

【台風による主な被害状況(9月30日現在)】

人的被害	なし
建物被害	住家 ◇全壊…0戸 ◇大規模半壊…3戸 ◇半壊…53戸 ◇床上浸水…236戸 ◇床下浸水…319戸 ◇一部破損…11戸
	非住家 ◇全壊…2戸 ◇半壊…1戸 ◇浸水…334戸 ◇一部破損…2戸
避難所	開設延べ40か所、避難者延べ173人
農林業被害	◇農地冠水…約403㌔ ◇作物被害…約218㌔ ◇山崩れ等…127か所 ◇ビニールハウス、農機具庫…94棟 ◇その他…22件
漁業被害	◇漁港海岸浸食…15㌔ ◇漁船の転覆・破損など…21隻 ◇船小屋全壊など…2棟 ◇海岸漂着ごみ…500立法㌔ ◇定置網一部破損…6統
道路・河川など被害	◇市道…153か所(冠水、山崩れなどによる通行規制19か所) ◇河川…103か所 ◇都市公園…3か所 ◇市営住宅…4戸

【河川の最高水位】

	水位	日時
由良川(大川橋)	7.61㌔	9月16日13時20分
伊佐津川(二ツ橋)	3.19㌔	同日3時40分
与保呂川(行永)	1.92㌔	同日4時10分
志楽川(田中町)	2.16㌔	同日2時10分
高野川(引土)	2.00㌔	同日2時30分
米田川(上安)	0.74㌔	同日1時50分

【台風の概況】

9月13日3時に小笠原諸島近海で発生した台風18号は、発達しながら日本の南海上を北上し、14日9時に強風域の半径が500キロメートルを超える大型の台風となり、15日18時には暴風域を伴いました。その後も北上を続け、潮岬の南海上を通過して、16日8時前に暴風域を伴って愛知県豊橋市付近に上陸。その後、速度を速めながら東海地方、関東甲信および東北地方を北東に進み、16日9時に北海道の東で温帯低気圧となりました。

【市内での降水量と最大瞬間風速】

	気象概況	日時
総雨量	305.0ミリ㌔	9月15日0時～16日24時
1時間最大雨量	27.5ミリ㌔/h	同日18時～19時
最大瞬間風速	29.5㌔/s	9月16日7時52分

9月15日から16日にかけて日本列島を襲った台風18号による豪雨で、舞鶴市においても、由良川や伊佐津川、高野川などの河川が氾濫・増水したほか、各所で山崩れが発生するなど、市全域に甚大な被害が発生しました。

市では、市民の皆さんの安全・安心を最優先に考え、平成16年の台風23号の経験を生かし、早めの対策に努めました。

15日には、夜間に大雨や強風の影響を受け、災害が発生する恐れがあると判断し、同日16時に自主避難所5か所(大浦会館、東公民館、中総合会館、西支所、加佐公民館)を開設したほか、防災行政無線や広報車、まいるメール配信サービス、市ホームページなど、あらゆる手段で気象情報や防災情報などの伝達を図りました。

その後、19時15分には災害警戒本部を、22時30分には災害対策本部を設置し、市内の被害状況などの把握に努めるとともに、翌日16日1時30分に発表された土砂災害警戒情報や河川の増水状況なども考慮し、2時に避難準備情報を市内全域に発表しました。深夜の発表となったため、「夜間の避難は危険なため、山際および川沿いの人は、自宅2階への避難または隣近所の安全な場所への避難を」と呼び掛けました。

そのような中、16日5時5分には、京都府、滋賀県、福井県の全域に、今年8月30日に運用開始となった大雨特別警報が全国で初めて発表されました。本市においても、同日6時45分、小・中学校を中心に広域避難所を開設し、同日同時刻に市内全域に避難勧告を発表しました。

台風が去った以降、被害状況の把握に努めるとともに、市民の皆さんの一日も早い生活の再建に向け、被災地域におけるごみやし尿の処理、消毒などを実施したほか、「災害対策本部加佐地区支部」の設置、市の支援策などを掲載したチラシの配布など、被災された方への支援に全力を挙げて取り組んでいます。

(※支援策などについては6～9ページに記載)